

2023年度 新人看護職員の12か月間

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--|---|---|---------|---------|--|---------|---------|---------|--|---------|---------|
| 到達目標 | 配置部署の特殊性が理解できる 社会人・専門職業人としての基本的マナーを理解し職場の環境に慣れる 日勤の流れが理解できる PNSペアと情報共有し必要な報・連・相ができる 日常の看護技術に必要な基礎看護技術を習得し、根拠を考え指導を受けながら実践できる 電子カルテからケアに必要な情報収集や入力ができる | | グループメンバーの一人として行動できる 関連部門・多職種とのコミュニケーションがとれる 患者家族の思いを尊重して行動できる 夜勤・遅出業務が理解でき、助言を受けながら実践できる 緊急時、夜勤の報告方法を説明する 1日の業務の優先順位を考えて行動できる 患者の変化(症状・検査データ・反応)をよみとることができる 7月以降は助言を受けながら夜勤・遅出 が独りでできる | | | 担当患者の看護過程が展開できる 根拠をもってケアを行い、アセスメント能力を高め看護が実践できる 夜勤・遅出メンバーとしての責任と役割を果たすことができる 支援受けながらグループメンバーの役割が遂行できる 経験不足の看護技術に自ら積極的に取り組むことができる 受け持ち患者の看護計画立案・修正ができ看護過程が一通り展開できる | | | | 部署の様々な役割が、目標達成と関連し次年度の目標が考えられる 看護過程への理解を深め、看護実践能力を高める | | |
| 指導計画 | 3週目 PNSペアとシャドーイング ナーシングメゾットを活用し基礎看護技術を指導者とともに見学 | 1週目 PNSペアとして患者を2人～3人受け持つ 退院患者を担当する 2週目 PNSペアとして患者を2人～4人受け持つ | PNSペアとして患者を複数受け持つ 夜勤・遅出業務を見学からはじめ、助言をうけながら実践する | | | 自分の担当患者の看護記録の入力を指導者ととも実施 基本的技術の習得状況にあわせ担当患者の数、患者の重症度をあげていく 夜勤遅出の独り立ちちは9月を目安とする 個人の状況に合わせて夜勤遅出の回数を増やす 未習得の技術は一人で行わない。技術については1年日以降も確認をしながら行う | | | | | | |
| | 4週目 PNSペアの患者を1～2人受け持つ | 3週目 休日業務を経験する パス入院を担当する | | | | | | | | | | |
| | 5週目 PNSペアの患者を2人～3人を受け持つ | 4週目・5週目 夜勤・遅出オリエンテーション PNSペアとして患者を複数受け持つ 入院患者を担当する 検査・手術・重症患者を担当する | | | | | | | | | | |
| 静脈注射 | 集合研修 ・概要 ・採血、皮下・筋肉注射研修 ・輸液ポンプ、シリンジポンプ ・点滴の準備、溶解、実施等 ※研修が終了すれば見守りのもと実施できる項目 採血、血糖測定、血培養採取 皮下・筋肉注射 | 1.各部署の特殊性に応じた静脈注射研修 (研修レポート提出) 2.輸液ポンプ実技テスト 3.シリンジポンプ実技テスト 4.事例レポート提出 ※全て5月末日までに | 左記の課題すべて終了後、レベル I 認定証発行 実施できる項目 1.末梢静脈 ・翼状針による静脈注射 ・側管からの静・薬剤の更新 ・ロック中の留置針からの静脈注射 ・麻薬の投与 ・輸液ポンプ・シリンジポンプからの与薬 2.中心静脈 ・薬剤の更新 ・側管からの輸液、注射 ・輸液ポンプ・シリンジポンプからの与薬 ・麻薬の投与 | | | | | | | | | |
| 集合研修 | ・PNS ・重症度、医療・看護必要度 | ・KOMI理論研修 ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート | ・ピアサポート |
| | ・看護技術研修 導尿 吸引、膀胱留置カテーテル | | | | | | | | | | | |
| 面接 | 看護部長面接 | 看護師長面接 看護師長、担当副看護師長、実地指導者とふりかえり(月1回) | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

